

地球温暖化や自然の破壊が進む中で私たちはどうしたら「いのち」をはぐくむことができるのでしょうか？と令和1年度の里地里山ナチュラリスト養成講座を開催していました。

そして令和2年度を迎え、パンデミックとなったコロナ禍に、足元の森はナラ枯れに遭遇してしまいました。

## 「ナラ枯れ」 学習会&情報交換会

日時 10月24日(土曜日) 10:00~12:00

会場 麻生区役所 第1会議室 (感染症対策を取ります)

猛暑が続いた今夏、コナラの木が枯れていく「ナラ枯れ」がとうとう麻生区や周辺の緑地や公園のほぼ全域で発生しました！  
関西から北上し、神奈川県でも高の方から顕著に見られています。  
森では枯死した樹木やフラス(木くず)が発生している樹内があります。

ところで、そもそも「ナラ枯れ」とは何でしょう？  
その実態、推移を学んで、それぞれの場所から状況を報告し合い、  
森づくりをこれからどうすればいいの？に知恵を合わせます。

## 「ナラ枯れ」だからこそ 「森づくり」の学習会

日時 2月27日(土曜日) 13:30~15:30

会場 おっ越し山ふれあいの森  
柿生の里特別緑地保全地区

集合 13:30 おっ越し山ふれあいの森 下の広場  
(柿生中学校隣-柿生駅徒歩7分)

講師 倉野知子 (森林総合管理士、林業普及指導員)  
神奈川県横浜川崎地区農政事務所 地域農政推進課

## 春の黒川探訪

日時 3月27日(土曜日) 13:30~15:30

集合 13:30 はるひ野駅 北口改札前

メイン会場 黒川谷ツ公園・黒川よこみね特別緑地保全地区  
踏査ルート はるひ野駅~黒川谷ツ公園~多摩よこやまの道~  
黒川よこみね特別緑地保全地区~はるひ野駅

案内・お話し はるひ野里山学校 原栄一  
水辺のある里山を守る会 織野章



写真は、黒山フォーラム 山麻生資料集から、水辺のある里山を守る会、はるひ野里山学校の団体紹介カードより。



近場の皆で現状を踏まえて打開策を考えようと令和2年度里地里山ナチュラリスト養成講座を開催しました。

第1回 10月24日

### 1. 「ナラ枯れ」の実態、対策、推移を学びました

- ・神奈川県森林協会専務理事 西口孝雄
- ・神奈川県横浜川崎地区農政事務所 倉野知子  
(森林総合管理士、林業普及指導員)

### 2. それぞれの(場所)から現況を報告し合いました

- ・水辺のある里山を守る会(黒川よこみね緑地) ・はるひ野里山学校(黒川谷ツ公園) ・柿生の里クラブ(柿生の里特別緑地保全地区) ・町田・三輪里山クラブ(三輪の森) ・森もりクラブ(向原の里特別緑地保全地区、ほか) ・早野聖地公園里山ボランティア(早野梅ヶ谷炭焼き小屋周辺) ・葉積緑地運営管理協議会(葉積緑地) ・麻生多摩美の森の会(麻生鳥のさえずり公園) ・まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ(主におっ越し山ふれあいの森)

### 3. 市の職員の参加があり、現状を聞いてもらいました

- ・麻生区役所道路公園センター整備課公園整備係
- ・川崎市建設緑政局緑政部からみどりの協働推進課、みどりの保全整備課
- ・高津区役所道路公園センター
- ・早野霊園事務所

参加者の合意が得られ、この学習会として、川崎市の財産である公園緑地のナラ枯れ対策をぜひ進めてもらいたいとお願いました。

第2回 2月27日 森づくりの基本を学ぼう！

ナラ枯れによって、今までの「森づくり」への疑問や課題が見えるようになりました。それぞれの森の現況から、今後の森づくりへと実践していく上で、役割分担などを検討していく必要に迫られていると実感しています。荒廃していく自然ではなく健康な自然でありたいものです。

第3回 3月27日 貴重種の保全とナラ枯れ

湧水がこんこんと湧き出て、春の草花たちが花開いて迎えてくれました。自然が豊かって気持ちいい。ナラ枯れが広がらないことを祈る。



# あさお 里山こどもクラブ

例年こどもクラブのちらしを各小学校を通して児童への配布をお願いしていたのですが、感染防止策で手いっぱい先生方に負担をかけたくないと遠慮しました。子どもたちが自然と関わることはとても大切なので、少人数、短時間で開催しました。

耳を澄まし目を凝らし、自分の手と体と心で感じ、自分の頭で考えましょう。  
「不思議」がむくむく湧いてきたら調べてみよう、聞いてみよう！

プレの回 7月11日(土曜) 12日(日曜) 10:00~11:00 案内・講師 石井よし子  
会場：柿生の里特別緑地保全地区 協力 柿生の里クラブメンバー

## ヤマユリ味く丘に行こう！

ヤマユリが見事に復活しました。  
「本物のヤマユリ初めて見たよ！」  
ここではからむしでも遊べる。



第1回 10月17日(土曜) 10:00~11:30 講師 高柳芳恵(ナチュラリスト)

## 木の実・草の実・不思議だね！ — 秋のお散歩、いいもの いくつ？

「これ、夏のおとしもの？」  
「もう、冬じたくしてる！」  
そう、秋は、夏と冬をつなぐ季節。  
さあ、はばひろい“秋”を  
たくさん見つけて 歩きましょう。



なんでそこにその名前であるの？  
セイタカアワダチソウは背高泡立ち草 よく泡がたちました。

不要なものはない  
セミの抜け殻を分解して  
いて...  
パイプのように遊べちゃう！

あいにくの雨で王禅寺ふるさと公園や馬場道には行けませんでした。高柳先生が調理室でも体験出来るようにと材料を用意してくれていました。

第2回 11月1日(日曜) 10:00~11:30 講師 小林健人(長池公園副園長)

## 五感で楽しむ秋の里山



拾い集めた物を貼ってフェイスガードの出来たよ

鳥の声、虫の食べあと、野生動物の気配。  
里山には、秋ならではの出会いがたくさん！  
生き物たちは、まるでジグソーパズルのように、  
お互いがつながりあって暮らしています。  
散りばめられたピースをみんなで集めて、  
里山探検のはじまりはじまり  
おっ越し山～散歩道～柿生の里特別緑地保全地区

第3回 12月6日(日曜) 10:00~11:30 講師 柿生の里クラブメンバー

## 「柿生の里の収穫祭」

秋から冬への自然の変化を感じながら  
どんぐり6種類を入れたどんぐり小箱  
作りにチャレンジ。それから竹を伐る。  
遊ぼうパン。修了証にはおっ越し山の  
ジュズダマで作ったブレスレットをそ  
える。



# 里地里山カフェ塾



今年度の事業は新型コロナウイルス感染予防を第一に、事態の推移を注意深く見守りながら、生涯学習支援課（麻生市民館）と話し合い、出来得る可能性や工夫を探りつつ進めて行こうと少しずつ歩を進めました。4月11日からの休館から6月初めの開館を待って万福寺人参の種の調達と配布の準備から始まりました。

## 万福寺鮮紅大長人参



6月12日（金曜）「種」と資料の配布をしてから半年あまり、小さな種は長い人参に成長できたでしょうか。12月23日（水曜）は試食会はできなくても品評会だけでもやれないかと検討し、実習室定員の半分以下25名以内での開催の運びとなりました。「第21回万福寺人参品評会—私の万福寺人参を語り合う会—」です。例年の人数を大幅に縮小せざるを得ず栽培者限定となりました。人参持参のみで帰る方もいて出品は28組。並んだ人参は、姿もよく長く圧巻でした。なお出品者の方々は実習室での審査中は視聴覚室へ移動し栽培の苦労や喜びなどを語ってもらいました。今年度はこの人参の特徴である甘みとこく（味覚）は審査できませんでしたが、以下の賞が決まりました。最優秀賞-タイガーファーム・深沢裕二B、香り賞-マッシュファーム・脇愛子、姿賞-鈴木章夫、ユニーク賞-岡上アグリ・リゾート山田貢、特別賞-千代ヶ丘小5年B、努力賞-金程小2年&多摩美の森の会・豊田雅章（審査委員:長瀬和徳 麻生区長多田貴栄 市民館館長代理 船津真生 万福寺人参友の会共催）

またNHKのおはよう日本でも取り上げられ12月12日（土）古沢の鈴木章夫さんの畑から中継されました。長瀬広美さん、井上いづみさんが万福寺人参をメインにした伝統食のお煮しめとてんぷらを調理して画面に添えました。



## からむし講座

麻生区の地名の由来と言われる 麻-苧麻(からむし)。

人々はからむしの繊維で紐や糸を作り衣服、漁網、紙などをつくり暮らしに役立てていました。例年からむしボランティア研修で木綿以前の繊維：麻や苧麻を学び、苧引きして繊維を抽出し、あさお里山こどもクラブへ向けての準備をしていました。今年度は材料は用意して置こうと7月26日（日）、8月2日（日）に行いました。苧引きにも適した時期があるのですが、何とか間に合いました。区役所母子像の所で自生しているからむしを見学し、苧引き用は柿生の里クラブが調達しました。

## からむし ボランティア 研修



## 麦



子どもたちの麦の学習用に大麦・小麦の栽培を柿生の里で行っています。収穫から種を取って来年度用にまた畑に蒔きました。

里山フォーラムでこんなことやってみたい、何かお手伝いしたい、講座やイベントのやり方を学んでみたい、などなど心に浮かんだ方は下記へご連絡ください。

主催 里山フォーラム in 麻生/麻生区生涯学習支援課(麻生市民館)

里山フォーラム E-mail satoyamaforum@gmail.com TEL 070-6426-6123 麻生市民館 TEL 044-951-1300

[だより編集,文責-石井 写真-雛倉,石井]